

いつも優しかった 辻邦生先生の思い出

話題提供 **笠松 巖**さん (元中央公論新社書籍編集局長)

日 時 **10月18日(土)** 午後1時30分～3時30分(予定)

会 場 **あがたの森文化会館 講堂・第一会議室** 参加費 200円

※ 電話での事前申し込みが必要です (高校生以下は無料です)

私が中央公論社に入社した当時、旧制松本高校で辻邦生氏の後輩だった社員が二人いた。そのうちの一人が私の直属の上司で、彼が辻邦生氏に引き合わせてくれたのである。もう半世紀以上前のことであるが、その時の印象がいまだに強く残っているのは、旧制高校の先輩後輩の関係がどのようなものかを目の当たりにしたからである。『どくとりマンボウ青春記』の世界が、突然よみがえってきたかのような感じだった。

以来、氏が亡くなるまで30年近く、小説家としても人間としてもすばらしかったこの大作家と親しくさせていただいたことは、編集者として誠に幸運なことだった。小説家としては珍しくいつも温和で、怒った顔は見たことがない。

オンドリ夫婦と言われた佐保子夫人(西洋美術史学者)や北杜夫氏との関係なども、かなり記憶もあいまいながら思い出すままにお話ししようと思います。

また、辻邦生氏が高校生活を送った1944年から49年は、言うまでもなく戦中戦後の大混乱期で、後に当時を回想して〈旧制高校の2年目に終戦となったが、その頃から私の精神の中に地殻変動が起こった〉と書いているが、数年前に発見され、今回の辻邦生展で展示されている「松本高校時代の日記」には、文学を志す多感な青年の心情が素直に綴られているので、それについても少し触れたいと思っています。

笠松 巖(かさまつ・いわお)さんは1941年生まれ。東大文学部卒業後、1966年、中央公論社に入社。主に、文芸関係の書籍編集に携わる。『辻邦生全集』(全20巻、新潮社)の全巻解題、著作年表、書誌を作成。著書に『中央公論新社120年史』。

☆テーマに沿って話題提供者の話のあと、気楽に懇談。自由にご参加ください。

主催：サロンあがたの森実行委員会 共催：旧制高等学校記念館・記念館友の会

申し込み・問い合わせ 旧制高等学校記念館 ☎35-6226 FAX 33-9986